

# 東大が新指針「ビジョン2020」

東京大学は10月、「卓越性と多様性の相互連環」を基本理念とする「ビジョン2020」を公表した。東京大学が何を目標とするのか、五神真学長に寄稿してもらった。



五神 真

東京大学学長

今秋、梶田隆章東京大宇宙線研究所長のノーベル物理学賞受賞といううれしいニュースが飛び込んできた。岐阜県神岡鉱山跡に建設したスーパーカミオカンデを使い、宇宙から飛来するニュートリノが質量を持つと証明したことが評価された。完成したと思われていた素粒子の標準理論の

限界を明らかにする画期的な実験であった。

日本の素粒子理論研究は長岡半太郎に始まり、湯川秀樹、朝永振一郎、南部陽一郎、小林誠、益川敏英へとつながり、お家芸といわれる。

しかしニュートリノの実験は、前例のない壮大な装置を独自に考案し、多額の予算を獲得し、無数の技術開発課題を克服したうえでこの成果だった。小柴昌俊、戸塚洋二、梶田らのリレーを軸に、国内外の研究者と大学院生が協働しておこなった40年近くにおよぶ一大プロジェクトである。

成功の背景には、一つには高度経済成長によって、もう一つには平和の維持によって、日本が世界有数の豊かな社会になったことがある。だからこそ梶田教授の受賞は、一朝一夕には成し遂げ得ない日本の基礎科学力の

## 知の協創の世界拠点に

強さを、改めて世界に強く印象付けたのだ。

□ □ □

東京大学では、今も様々な研究の分野で世界を相手にしのぎを削っている。その挑戦の最前線は、優秀な若手研究者と意欲的な大学院生であり、彼らこそが未来の成長と活力の源泉である。

その一方、研究者雇用不安定化や、博士大学院進学率の激減など、未だに多様な学術をじっくり育むことを阻む課題が顕在化するなか、若者を励ますメッセージを十分に発信していない。東京大学は今年で創立138年、終戦を中間点

### 主なアクションプラン (東京大学ビジョン2020から)

研究	<ul style="list-style-type: none"> <li>国際的に卓越した研究拠点の拡充・創設</li> <li>人文社会科学分野のさらなる活性化</li> <li>研究者雇用制度改革</li> </ul>
教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>国際卓越大学院の創設</li> <li>学生の多様性拡大</li> <li>東大独自の教育システムの世界発信</li> </ul>
社会連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>産学官民協働拠点の形成</li> <li>学術成果を活用した起業の促進</li> <li>国際広報の改善と強化</li> </ul>
運営	<ul style="list-style-type: none"> <li>機動的な運営体制の確立</li> <li>財源の多元化と戦略的な資源再配分</li> <li>卒業生・支援者ネットワークの充実</li> </ul>

## 卓越性と多様性 連動 ■ 学際融合の大学院も

あらわになってきた。人類が得た技術や経済の大きな力を制御して、社会を安定した発展へと向かわせる道筋は明らかではない。グローバル化の中で、多様な人々が尊重しあいながら協力し、経済・社会を駆動させる新たな仕組みが必要だ。これを動かす原動力は知恵であり、知恵が経済を動かすのだ。新たな仕組みに移行できるのかどうか、私たちは岐路に立っている。今回のノーベル賞受賞が象徴するよう

に、日本はアジアにあって圧倒的な学術の先進国としての蓄積がある。変革を先導する歴史的責務があり、総合研究大学としての東京大学はその中心を担うべきである。東京大学には創立以来、国民によって支えられてきた蓄積がある。これを最大限に活用し次の70年の社会を担う若者に力を与えることは、私たちの重要な使命である。そのためこそ、大学は時代が求める機能を備えた新しい形に転換していかねばならない。学術活動にも、その成果を生かす

かし方にも国境はない。世界的な視野と戦略とをもち、人類全体の安定と繁栄に資する変革のシナリオを描き、主体的に行動する必要がある。だが、欧米の既存大学にもその解答はない。私たちは世界に通じる独自モデルを発想せねばならない。財源の充実も大きな課題である。基盤的な活動を支える国立大学法人運営をまけないが、財政赤字をかかえ少子高齢化が進むわが国において、ただ支援を求めるだけでは責任を果たせない。教育・研究活動の質をさらに高め、学術の価値を掘り起こし可視化していく責務がある。大学は学知を駆動力とする能動的な事業体へと進化し、自立して歩む経営の仕組みを備えていかねばならない。

□ □ □

こうした東京大学が果たすべき機能の基本理念と具体的方針を共有するためにまとめたのが「東京大学ビジョン2020」(10月22日公表)である。その基軸は、大学を21世紀の地球社会に貢献する「知の協創の世界拠点」と位置づけたことにある。全体を貫く理念は「卓越性と多様性の相互連環」である。「卓越性」と「多様性」とが絶えず連動することが、学術をダイナミックに進化させる。文理に広がる多様な深い学術の相互の出会いを促し、新しい学知を生みだし、それを新たな価値として社会に伝える場としていきたい。中でも、知をもって新